



## 1 夏祭りパレードお世話になりました

初日の7月26日(金)午後5時より富岡商店街を中心に開催されたパレードに当センターも参加しました。今年は**阿南光高校**の皆さんが参加してくれました。明るく・爽やかに・はつらつと・笑顔でのボランティア活動はとても好評でした。ありがとうございました。



非行防止を啓発するチラシやグッズなどを配布し、地域ぐるみでの健全育成を呼びかけました。



毎年恒例のパレードですが、今年も多くの方々の協力を得て行うことができました。ありがとうございました。

## 2 知っておきたい子どもたちの世界①

(月刊生徒指導2018「兵庫教育大学 竹内和雄 准教授」抜粋)

### (1) LINEの違和感

高校生がよく使うのは、LINE・ツイッター・インスタグラム。LINEは専ら連絡用で、ツイッターは日々の出来事をアピールするものと言います。高校生たちにとって、LINEは特別なものでなく、「会話」する場所です。お母さんたちがメールのように長々書くのは違和感があると言います。生徒たちに「ネットしててイラッとくることは？」と質問すると、昔は「既読無視」の回答が多かったのですが、最近は「長文」と笑います。私たち大人にとってLINEは「メール」の代わりですが高校生にとっては「会話」の代わりです。このあたりを実感として理解するのは難しいですが、重要なニュアンスです。



### (2) 高校生のニーズ

高校生になったころから、メインはツイッターに移行していき、最近はインスタグラムの利用者が急増しています。インスタグラムは写真がメインなので、**リア充**(=リアルが充実していること)を自慢したい、高校生のニーズに合っているのかもしれない。

### (3) なくてはならない場所

高校生の多くは、**本アカ**(本アカウント=本名であるアカウント)以外に、**裏アカ**(裏アカウント=非公式のアカウント)をもっています。複数の「顔」をもっているのです。

裏アカには、本アカに書けないことを書きます。他にも「趣味アカ」「愚痴アカ」などがあるそうです。「鍵アカ」は、認めた人(フォローした人)しか見ることができません。電通総研(2015)によると、高校生は平均3・4個のアカウントをもっているの、平均して3・4個の顔を使い分けているといえます。「裏アカには闇の自分、普段言えない弱い自分を書いているので、そこで知り合った人には何でも話せる」「自分をさらけ出すので、リアルの友達より何でも話せる」等、一部の子どもたちにはなくてはならない場所です。



### (4) 高校生の日常

フォローし合うとDM(ダイレクトメッセージ)ができるようになり、メールのように他の人に知られずにやりとりできます。専門用語の羅列にめまいがする方も多いと思いますが、高校生たちには日常です。最近では小学生でも使いこなしています。少しわかれば簡単なことばかりです。



### (5) 今を伝えていきたい

子どもたちにとってインターネットは、生活の一部になりつつあります。最近ではスマホやタブレットを使って勉強する子が増えてくるなど、ほとんどが便利に活用しています。しかし、子どもたちが危険に直面していることも事実です。SNSやゲームに夢中になる子どもたちを活写(「かつしゃ」いきいきと写しとること)を通して、子どもたちに今、何が起きているかをみなさんにお伝えできればと考えています。

## 3 用語解説

### ●不思議の国のアリス症候群【ふしぎのくにのありすしょうこうぐん】

目に障がいがないのに、通常サイズとは異なるように見えてしまう病気。遠近感がおかしくなったり、自分より背の低い人が巨大に見えたりするなどの恐怖と不安を覚える。これは、ウイルスの初期感染による中枢神経系の炎症が招く症状で子どもの頃に経験することが多い。原因は判明していないが、短期間・一時的なので問題視されない。深刻にとらえる子どもがいたらそのように説明し、早めに安心させたいところです。